



お食べん新城

～新規就農者の声～ ▽農業課 (TEL23 - 7632)

新城市は平坦部から高原まであり、地域ごとの特色にあわせた農業を営んでいます。

この特集では、地域の特色を生かして真摯に農業と向き合う若手農業者の声と、市の新規就農支援制度を紹介します。インタビューには新城市4Hクラブの皆さんに協力いただきました。

農業はこれからの産業

テレビで見た農家に憧れて

作手で夏秋トマトを栽培し始めて4年目の松本晃昌さん。

出身は岡崎市で、大学在学中にテレビで若い農家さんが活躍しているのを見て、農業に興味を持ちました。卒業後は花の卸売市場に就職しましたが、次第に自分で農業がしたいと思い、転職。東海地方での就農を目指すなかで、就農サポート体制が手厚い新城市で就農することに決めました。

就農するにあたり、農業の知識は少なく不安しかなかったのですが、市やJ A、県のサポートもあり、最近軌道に乗ってきています。

安全安心の提供を

松本さんはトマトを栽培する上で気を付けていることは安全性。「農業は人が食べるものを作っているのだから、誇りをもって仕事ができる。一方で安全なトマトを提供する責任も感じる」と真剣なまなざしで話してくれました。

農業を夢のある仕事に

「農業は1次産業だけど、6次産業化もできる。自分でもこれから挑戦していきたい」と農業はこれから伸びる産業だから、夢のある仕事にしたいと語ってくれました。

ヤギを新城の特産に

ヤギの可能性を感じて

大学を卒業して関西の企業に勤務した後、作手に帰郷して就農した今井崇さん。元々お父さんが趣味でヤギを飼っていましたが、自分が農業をするなんて、考えたこともなかったそうです。

そんな中、ヤギの除草イベントに参加して考えが変わります。ペット用ヤギミルクはアレルギーが出にくいので、非常に人気があります。国産は少ない。そこでヤギミルクを生産し、販売しようと思いました。

サラリーマンとは違う苦労

サラリーマン時代と比べて、自分のしたいように仕事ができるようになりましたが、その大変なこと多いそう。ときには勉強のために長野県まで足を運ぶことも。「4Hクラブに入って、家族以外で農業のことを話せる仲間ができた。同じ若手農家と交流ができて」と4Hクラブが励みになっていると話してくれました。

ヤギミルクを知ってもらいたい

ヤギを育てる上で心がけていることは「できるだけストレスをかけるないようにすること」。ストレスが少なく健康なヤギからは健康なミルクが取れます。「犬が喜ぶミルクをこれからも提供していきたい」と笑顔で話してくれました。

新城市で農業を始められて良かった

豊田から新城へ

豊田市出身の丹羽祐介さん。実家は農家ではありませんが、農業高校、農業大学校と進学し、繁殖和牛農家となりました。

「知っている」と「できる」は違う

高校や農業大学校で農業経営や

乳搾りのことを学びましたが、実際に農家になってみると学校で学んだこととギャップがあったそうです。しかし、そういったギャップで困ったことがあっても、市、J A、県、4Hクラブなど、どこかに相談すれば解決策が見つかります。また生活面で困ったことがあっても、所属する消防団の仲間や地元の人に相談することができて助かっているそうです。

「4Hクラブの理事として、県全体の農業事情に触れる機会があるけど、これほど農業を始めやすい地域は他にはない」と笑顔で話してくれました。さらに「自分の農業の方針はまだ定まっていらないけど、じっくりと考えていきたい」と真剣なまなざしでした。

農業を楽な仕事に

「農業をもっと自動化、規模拡大をし、楽な仕事にしたい。自分のためでもあるが、これから担う世代や、子どもたちにきつい仕事はさせたくない。」自身も20代だが、既に後のことを考えており頼もしく感じました。



松本晃昌さん
(作手高里/31歳)



今井 崇さん
(作手黒瀬/37歳)

Uターンで農家に

作手でホウレンソウを栽培して7年になる鈴木雅貴さん。介護の現場で働いていましたが、地元に戻るため就職しました。当時は農業は働けばその分だけ稼げると夢を持っていただけです。ホウレンソウを栽培し始めたのは、夏秋ト



鈴木雅貴さん
(作手高里/30歳)

マトほど産地化されておらず、新しいことに挑戦したかったからだそうです。

人とのつながりに助けられて

いざ始めてみると農業は甘くなく、「害虫や雑草など苦労も多い」と苦笑いの鈴木さん。一人で解決できない問題は、知識を持った先輩農家や親せき、友人に助けられながら、農業を営んでいます。4Hクラブもその1つです。他市の4Hクラブとの交流もあるので、良い刺激になります。

高品質なホウレンソウを

目標は、他産地よりも食味、見た目、棚もちが優れたホウレンソウを作ることです。ホウレンソウ生産者は、人数はまだ少ないですが、考えが統一しやすいという利点があります。良い土づくりから品質の向上を全員で目指しています。

「農業王に俺はなる！」と意気込む鈴木さん。今後、高級スーパーでも展開していきたいと力強く語ってくれました。

きっかけは父の手伝い

新城地区で両親とイチゴ農家を営む中谷一基さん。お父さんが定年後にイチゴ栽培を始めたのがきっかけです。元々は野菜好きでも農業に興味があるわけでもありませんでしたが、今となっては、農業はおもしろいと語ります。

工夫次第で品質を良くできる

ダニとうどんこ病の発生を抑制するためハウス内に紫外線ランプを取り付けたり、ハウス内で発生した水滴がイチゴに落ちないように資材を取り付けたりと、良いイチゴをつくるために工夫できることに農業のおもしろさを感じるそうです。

就農してから2年目で4Hクラブに入った中谷さん。「最初は入るつもりはなくて、半ば強引に加入させられた」と、中谷さんは笑います。クラブに入ったことで、同年代の農家とのつながりができ、農業やそれ以外の相談もできるようになったといいます。また、中谷さんは豊川市在住のため市内に



中谷一基さん
(新城豊栄/38歳)

市は新規就農を応援しています

市は、農業に興味があり就業意欲のある方を市内外から募集し、新規就農者として営農を開始するためのサポートや支援をしています。

推奨品目

- ◆ 夏秋トマト
- ◆ イチゴ
- ◆ 周年ホウレンソウ

STEP 1 情報収集 就農相談

情報収集をし、自分の目指す農業について知ることから始まり、まず分らないことは、まずは就農相談窓口にご相談ください。

- ◆ 公益財団法人農林業公社しんしろ TEL 37・2260
- ◆ 愛知東農業協同組合農産部 TEL 22・2300
- ◆ 愛知県新城設楽農林水産事務所農業改良普及課 TEL 0536・620546

STEP 2 農業を体験する

希望があれば5日間程度の農業インターンシップ研修の受け入れをします。

STEP 3 就農の意思を固め、就農に向けたスケジュールを立てる

就農は、起業して「経営者になる」ことを意味します。資金計画やスケジュール計画など経営のイメージを掴みます。



▲農業インターンシップ研修

STEP 4 新城市新規就農希望者として意思表示

意思表示があったら受け入れるために面談します。認められれば、新規就農受入支援対象者となります。

STEP 5 研修で技術や経営を身につける

愛知県知事から認可を受けた農業研修機関である「公益財団法人農林業公社しんしろ」で、1〜2年間程度の農業研修を行います。

STEP 6 就農

就農後も随時、就業状況等確認、各種補助、助成事業申請サポート、栽培、経営に関するサポートなどの支援もあります。



▲ホウレンソウ就農

インタビュアーに協力いただいた「4Hクラブ」って？

新城市4Hクラブは、市内の若手農業後継者で構成する農業青年クラブです。日本全体で農業離れが深刻さを増す中、農業を元気にしたいという想いから日々それぞれの圃場で農業に取り組んでいます。

メンバー募集しています!



情報収集するチャンスです! /

トマト・ホウレンソウ栽培現地説明会

栽培農家さんの圃場を見学しながら、新規就農の説明をします。

日時 10月10日(日)
10:00~15:00

場所 愛知東農業協同組合
作手営農センター2階会議室

対象 トマト、ホウレンソウのいずれかで就農することに興味のある方

費用 無料

申込 農業課に電話またはホームページのお問い合わせフォームから10月5日(火)までにお申し込みください。

